別　紙

四日市版コミュニティスクール報告書（令和３年度総括）

四日市市立西笹川中学校

校長　三　谷　雅　人

１　コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

○校長が作成する「学校づくりビジョン」に沿って学校経営及び学校教育活動が適正に行われているかどうかを定期的に検証し、学校経営及び学校教育活動を充実させる。
○学校経営及び学校教育活動について、地域からの声や地域の力をより多く反映させ、地域とともに課題を共有し、課題解決に向けての方向性や方策を検討することで、よりよい学校経営を目指す。

２　コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

（1）教育活動の実践事例

運営協議会では、様々な立場の委員が授業風景をはじめとする校内の様子を見て回り、廊下や教室の掲示してある生徒作品や清掃の状態等にも意見をいただいています。

また、体育祭、キャリア教育講演会、多文化共生教育講演会、文化祭といった様々な行事も参観していただき、生徒の様子を小まめに観察して講評や助言をいただいています。また、コロナ禍の中で行う行事の在り方等についても意見を出し合ったり、本校生徒の強みや弱みについてオープンに話し合うことで、生徒にとっても地域にとっても居心地の良い、「地域とともにある学校づくり」を推進しています。

○様々な学校行事への参観

西笹川中学校では、全校生徒のうち４割が外国にルーツを持つ生徒が在籍しており、他の学校では学べないような「異文化への理解と共生」を日々実感しながら学習している。そして、「多文化共生教育」をすべての学校教育活動の柱に取り入れ、お互いの違いを大切にした取り組みを進めた。この取り組みは、子どもだけではなく、地域の方々や保護者にも理解を得るために、本年度は２年生で「職業講話」という形で地域の名人を招聘し「働くことの大切さ」や「学ぶことの大切さ」をお話ししていただき、キャリア教育の一環とした。

☆２年生：職業講話（地域の職人をお招きして）

(2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

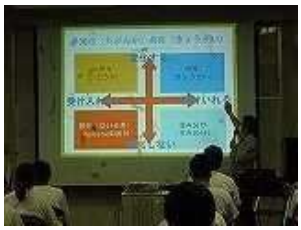
今年度もコロナ禍のために、様々な地区行事自体が中止となった。そのために、地域住民の方々との交流や連携を深めることはできなかった。しかし、６月には四日市人権・同和教育課と本校 OB、多文化共生サークルの生徒がコラボをして企画・運営をした「多文化共生パネルディスカッション」を行い、運営協議会委員の方にも参観いただいた。７月には、運営協議会委員による「多文化共生教育講演会」を Zoom を用いながら、全校生徒向けに行った。地域の方からの声には、生徒もしっかりと耳を傾け自らの生き方を見つめる機会となった。１０月には、中１が班別で笹川団地内をウォークラリーを行い、私たちの住む街「笹川団地」をより理解する姿を地域の方々に見ていただいた。

運営協議会委員の方々には、参観を重ねるごとに「あいさつ・掃除・異文化」を大切にする子供たちの姿に好評価を得ている。また「学校自己評価」では、子どもたちが「学校へ行くのが好きである」という肯定的な意見が８割もあることで、「引き続き誰もが安心をして登校できる学校づくりを進めていってほしい」との声もいただいた。

会議も回を重ねるごとに、本校ならではの課題にも理解をいただき、解決に向けて地域や保護者も巻き込んだ方策を今後も引き続き模索していくという共通理解をもつことができた。

☆全校：多文化共生教育パネルディスカッション(6/19)

☆全校：CS 運営協議会委員による「多文化共生教育」講演会(7/2)



☆１年生：笹川団地ウォークラリー(10/1)

３　今後に向けて

地域の様々な組織から運営協議会委員として参加していただいている状況は、学校経営や学校教育活動の充実だけでなく、子どもたちの地域への参加・参画の仕方の充実という面でも大いに役立っています。

また、この運営協議会を定着化することで、「学校づくりビジョン」の実現が可能になるとともに、「地域とともにある学校」という存在で地域と学校との距離が年々縮まっている。

外国にルーツを持つ家庭が非常に多い地域であり、学校でも地域でも言葉の問題や文化の違いをはじめとして様々な課題を抱えている。しかし、地域の「多文化共生サロン」や学習支援の「笹川こども教室」等、地域のサポート機関と連携しながら、外国にルーツを持つ方々にも日本人の方々にも住みやすい「多文化共生の街づくり・学校づくり」は確実に進展しています。

今後も、さらに深いご意見・ご助言等をいただきながら深い議論をすすめ、地域とともにある学校経営と学校教育活動の充実へとつなげていきたいと考えている。

☆学校運営協議会＆授業参観の様子